

R5年大豆栽培農事メモ 第3号 (エンレイ版)

令和5年7月20日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

1 生育状況

管内の開花期は7月17日頃となりました。

5月下旬に播種したほ場や、培土の実施が完了したほ場では生育が旺盛になっており、より多くの水分が必要な状況となっています。



里のほほえみ エンレイ

梅雨明け以降、高温・多日照や急激な降雨など、変化の激しい気象が続いています。このため気象の変化に注意し、ほ場の状態にあった管理（かん水・排水）を実施してください。

○今後の管理として、高温による乾燥ストレス軽減のためのうね間かん水や、品質向上に向けた除草対策と生育に合わせた適期防除の実施に努めましょう。

2 高温乾燥時や強風時は、うね間かん水を実施しましょう！

開花期（7月中下旬）～莢伸長期（8月上・中旬）にかけては干害の影響を受けやすく、圃場の乾燥が続くと着莢数が減り減収します。

今後、晴天が続く、5日以上連続で降雨が無く、うね間が白く乾いたら、葉が裏返る前に、早めうね間かん水を実施しましょう。

地温の低い夕方から早朝にかけて行うことが望ましい。

うね間かん水を円滑に実施するため、うね間のつなぎや排水溝等の点検を行い、入排水がスムーズにできるようにしましょう。



3 除草対策・除草剤の散布により雑草の発生を抑えましょう！

※いずれの除草剤も大豆にかかると枯れるため、注意して散布して下さい。

除草剤名	適用雑草名	使用時期 [収穫前日数]	10a 当たり使用量 (希釈水量)	散布方法	使用回数
バスタ液剤	一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 [収穫28日前まで]	300~500 mL (100~150L)	雑草茎葉散布	3回以内
プリグロックスL	一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 (草丈30cm以下) [収穫3日前まで]	600~1000 mL (100~150L)		4回以内
ラウンドアップ マックスロード	一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 [収穫前日まで]	200~500 mL (通常散布50~100L) (少量散布25~50L)		2回以内

4 適期防除で収量・品質の向上に努めましょう！ 紫斑病やカメムシ類などの防除を徹底し、 きれいな大豆を生産しましょう。



(1) 粉剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a 当たり 使用量	対象病害虫名	使用回数
1回目	幼莢期 (開花後15日頃)	7月30日 ~8月3日	スミトップM粉剤 [収穫21日前まで]	3kg	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ*	4回以内
2回目	子実肥大初期	8月10日 ~14日	トライトレボン粉剤DL [収穫14日前まで]	3kg	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ*	2回以内
3回目	子実肥大後期	8月27日 ~31日	トレボン粉剤DL [収穫14日前まで]	4kg	カメムシ類、ハモシトウ マメシクイガ*フタスジヒメ ハムシ	2回以内
随時	開花期~幼莢期 (7月下旬~8月上旬)	ウコンノメイガ* 初発時	ダントツH粉剤DL [収穫7日前まで]	4kg	ウコンノメイガ*	3回以内
	子実肥大後期 以降	カメムシ類多発時	スタークル粉剤DL [収穫7日前まで]	3kg	カメムシ類	2回以内

(2) 液剤防除

	生育ステージ	使用時期の 目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	希釈倍数 (10a 当たり 使用液量)	対象病害虫名	使用回数
1回目	幼莢期	7月30日 ~8月3日	アミスター20フロアブル [収穫7日前まで]	2,000倍 (100~300L)	紫斑病	—
			カスケード乳剤 [収穫7日前まで]	4,000倍 (100~300L)	カメムシ類、ハモシトウ ウコンノメイガ*	2回以内
2回目	子実肥大初期	8月10日 ~14日	アミスタートレボンSE [収穫14日前まで]	1,000倍 (100~400L)	紫斑病、カメムシ類	2回以内
3回目	子実肥大後期	8月27日 ~31日	スタークル液剤10 [収穫7日前まで]	1,000倍 (100~300L)	カメムシ類	2回以内
随時	開花期~幼莢期 (7月下旬~8月上旬)	ウコンノメイガ* 初発時	プレバソンフロアブル5 [収穫7日前まで]	4,000倍 (100~300L)	ウコンノメイガ*	2回以内
	子実肥大後期 以降	ハダニ 初発時	ニッソラン水和剤 [収穫7日前まで]	2,000倍 (100~300L)	ハダニ類	2回以内
	子実肥大後期 以降	カメムシ類 多発時	トレボン乳剤 [収穫14日前まで]	1,000倍 (100~300L)	カメムシ類、ハモシトウ マメシクイガ*フタスジヒメ ハムシ	2回以内

近年、子実肥大期に葉を損傷し、豆の充実を低下させるウコンノメイガの発生が増えています。初発時の発生状況を確認し、適切に防除しましょう。

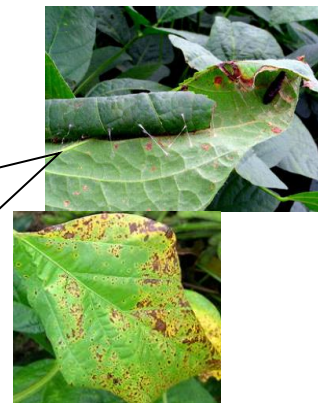


農薬・除草剤の使用では、使用基準を守り適正に使用し、周囲への飛散に注意するとともに、熱中症予防のため、特に暑い日は無理をしない！

4 的確な防除で収量・品質向上に努めましょう！



近年、子実肥大期に葉を損傷し、豆の充実を低下させるウコンノメイガや葉焼病の発生が増えています。初発時の発生状況を確認し、適切に防除しましょう。



ドローンを用いた防除体系

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a 使用液量 ／倍率	対象病害虫	使用回数
1 回 目	幼 莢 期 (開花後 15 日頃)	7/30 ～8/3	混) アミスター-20 フロアブル [収穫 7 日前まで]	0.8 ㍓ 16～24 倍	紫斑病	2 回 以内
			混) カスケード乳剤 [収穫 7 日前まで]	0.8 ㍓ 32 倍	カメムシ類 ハスモンヨトウ、ウコンノメイガ、ハダニ類	2 回 以内
2 回 目	子実肥大初期	8/10～14	トレボンエアー [収穫 14 日前まで]	0.8 ㍓ ／8 倍	ハスモンヨトウ、カメムシ類、 マメシクイガ	2 回 以内
3 回 目	子実肥大後期	8/27 ～31	スタークル液剤 10 [収穫 7 日前まで]	0.8 ㍓ ／8 倍	カメムシ類、ダズサヤマバエ	2 回 以内
随 時	開花期～幼莢期 (7 月下旬～ 8 月上旬)	ウコンノメイガ 初発時	フレバソフフロアブル 5 [収穫 7 日前まで]	0.8 ㍓ 16～32 倍	ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ、 マメシクイガ、材タバコガ	2 回 以内
随 時	子実肥大期後期 以降	ヨトウ カメムシ 多発時	トレボンエアー [収穫 14 日前まで]	0.8 ㍓ ／8 倍	ハスモンヨトウ、カメムシ類、 マメシクイガ	2 回 以内



農薬・除草剤の使用では、使用基準を守り適正に使用し、周囲への飛散に注意するとともに、作業は熱中症予防のため、特に暑い日は無理をしないようお願いします